

J R 総連による「除名」処分に対する見解

9月12日、J R 総連はJ R 東海労の「除名」処分を決定した。今まさに、各地の職場で虐げられている労働者の為の運動と組織づくりが問われている最中、この「除名」処分は、J R 東海労の運動と組織の存在を認めないための処分である。

職場で悩み苦しむ労働者と共に闘うために結成した新組合（J S 労）を「誰が組合員だかわからない、二重加盟は認めない」「組織破壊のための組織」と罵り、「会社に信用してもらえない」と本音を漏らすJ R 総連指導部。

J R 総連近畿地協第35回定期委員会での渡邊委員の発言内容をビラ配布問題にすり替え、J R 東海労を組織破壊者にでっち上げたJ R 総連指導部と近畿地協の津崎議長。

真実を明らかにするためにホームページに掲載した私たちの行為を「組織暴露」、削除指示に従わないのは「加盟各単組を侮辱する行為」、そして「公然と津崎議長の名誉を今もなお著しく毀損し続けている重大な犯罪行為」とまで言って真実に背を向けるJ R 総連指導部。

もはや現実に立ち向い、闘う方針提起などできなくなってしまったJ R 総連指導部はまさに「涸谷」である。

「2029年でJ R 東海労と西労は解散する」という方針を変更したJ R 総連指導部。いまや彼らの目的は、J R 東海労の運動と組織を一日も早くJ R 総連から排除し、東海の地から労働運動の灯を消すことだと言わざるを得ない。

今後はJ R 東海労指導部＝悪者キャンペーンが強化されるのだろう。同時に様々な嫌がらせも予想される。

私たちは、この現実に立ち向かい、真実を広め、報連相を強化し、更なる組織強化・拡大のために奮闘する。

以上

2024年9月16日

J R 東海労働組合新幹線関西地方本部